

## 愛媛大学大学院農学研究科 研究シーズ集（研究者情報）

<b>氏名</b>	<b>当 真 要</b>	<b>専 攻</b>	食料生産学
		<b>コ ー ス</b>	農業生産学
<b>職名</b>	准教授	<b>専門分野</b>	土壌肥料学
<b>メールアドレス</b>	toma@agr.ehime-u.ac.jp	<b>その他連絡先</b>	
<b>研究課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を用いた環境保全型農業技術の開発</li> <li>・レンコンの省力栽培</li> <li>・ススキ半自然草地における炭素蓄積と地球温暖化に与える影響の評価</li> </ul>		
<b>キーワード</b>	環境保全型農業, 土壌炭素貯留, 温室効果ガス発生, 竹炭, レンコン		
<p><b>研究内容：</b></p> <p>・水田からの CH<sub>4</sub>・N<sub>2</sub>O 発生に関する研究：          水田から発生する温室効果ガスについて、主に CH<sub>4</sub>発生抑制技術の開発を行う。冬期の圃場管理や地域資源（有機物、竹炭）を用いた温室効果ガス発生抑制や土壌炭素貯留の増加の技術について、玄米収量を維持しつつ持続的な技術としての確率を目指す。          Oomori et al. (2016) Soil Sci. Plant Nutri., (in press)          Toma et al. (2016) Soil Sci. Plant Nutri., 62, 69-79.</p> <p>・レンコンの省力栽培に関する研究：          浅床栽培を基本としたレンコンの省力栽培技術の開発を行う。新栽培技術が栽培コスト、収量・品質、土壌肥沃度へ与える影響について調査を行い、持続可能な栽培技術の確立を目指す。          当真ら (2015) 日本土壌肥料学雑誌, 86, 89-97.</p> <p>・伝統的ススキ半自然草地における土壌炭素蓄積と半自然草地の地球温暖化緩和機能の評価：          ススキ半自然草地における土壌炭素蓄積メカニズムの解明と、ススキ半自然草地の地球温暖化に与える影響の評価を行う。草地生態系の維持と地球温暖化緩和機能を最大化する適切な管理方の確立を目指す。          Toma et al. (2016) Soil Sci. Plant Nutri., 62, 80-89.          Toma et al. (2013) Glob. Change Biol., 19, 1676-1687.          Toma et al. (2012) GCB Bioenergy, 4, 566-575.</p>			
<p><b>提供可能な資源・技術・その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レンコンの省力栽培</li> <li>・温室効果ガス (CO<sub>2</sub>, CH<sub>4</sub>, N<sub>2</sub>O) 発生モニタリング・分析手法</li> <li>・農業資材 (肥料, 土壌改良資材) の評価</li> </ul>			
<p><b>プロジェクト研究希望テーマ</b></p> <p>農地 (畑地, 水田, 果樹園) と半自然草地における物質循環 (温室効果ガス・栄養塩動態) に関するテーマ</p>			